

Glocal Tenri



5

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.17 No.5 May 2016

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
現代社会に対応する教学
／高見宇造..... 1
 - ・ 天理教教理史断章 (104)
北野文書⑥「おさしづ」の写し翻刻
／安井幹夫..... 2
 - ・ 『教祖伝』探究 (23)
ちば定め
／深谷忠一..... 3
 - ・ 「おふでさき」天理言語教学試論～「こと」
的世界観への未来像～ (25)
第3章 和辻哲郎—日本語と哲学の
問題⑥
／井上昭夫..... 4
 - ・ 「元初まりの話」に登場する動物たち (12)
「しゃちほこ」と「うを」の関係につ
いて①
／佐藤孝則..... 5
 - ・ 「おふでさき」の標石的用法 (9)
「うらみ」について
／深谷耕治..... 6
 - ・ 「おさしづ」語句の探求 (15)
第1巻の「本席・家族」における「道」
／澤井治郎..... 7
 - ・ 新宗教のブラジル伝道 (37)
救済の多様性 生長の家①
／山田政信..... 8
 - ・ 地域福祉を拓く—新たな寄付文化の創
造— (17)
クラウドファンディング②
／渡辺一城..... 9
 - ・ 遺跡からのメッセージ (11)
イギリス滞日記⑦ ケルト展は何を問
いかけられるのか？
／桑原久男..... 10
 - ・ 現代宗教と女性 (9)
女人禁制の「伝統」と本質
／金子珠理..... 11
 - ・ 2015年度公開教学講座要旨 (6)
天理教と現代社会の生死観：死
／安井幹夫..... 12
 - ・ 教学と現代—これからの社会と天理教
(1)
天理教学から家族問題を考える
／深谷忠一..... 13
 - ・ English Summary..... 14
 - ・ おやさと研究所ニュース..... 15
- 新所長紹介／日本臨床宗教師会設立記念
シンポジウムに参加 (堀内みどり)／第
290回研究報告会 (森洋明)／「出前教
学講座」申し込み受付／『グローカル天
理』合本のご案内／新刊案内

巻頭言

現代社会に対応する教学

おやさと研究所長 高見宇造 Uzo Takami

2016年4月1日付で、深谷忠一前所長の後任として、おやさと研究所の所長を拝命しました。読者各位のお力添えを戴いて職責を果たして参りたいと思っております。

さて本誌は、2000年1月に創刊しました。創刊号には誌名の由来について次のように記しています。「グローバリズムとローカリズムを橋渡しした概念をグローカリズムと呼ぶことにしよう。前者を地球主義、後者を地域主義とすれば、グローカリズムは地域と地球の二つを一つにした地域地球主義ということになるだろうか。したがって、本誌の名称である『グローカル天理』とは、地域地球主義に立つ『二つ一つ』の天理ということになる」と。地球規模の視野を持ち、地域視点で行動するということから当然、個々の利害や対立を超えた新たな世界観であることが求められます。

では信仰の言葉で考えればどうなるでしょうか。私には「世界は、この葡萄のようになあ、皆、丸い心で、つながり合うて行くのやで。」(『稿本天理教教祖伝逸話篇』135「皆丸い心で」というお言葉が思い浮かびます。

ところでグローカリズムの具体的アプローチについて続けて、「本誌は地域と地球、理論と実践、物質と精神、聖と俗、男性と女性、理性と感性、からだところ、科学と宗教といった対立概念を『二つ一つ』にする思考の試みを目指す。その中で建学の精神の中核をなす海外伝道を異文化論の視座から貴重な生きた人間学として捉え、さらには様々な学問の領域に見られる個別と普遍、理論と実践の乖離に対して、天理教学を基底にその両極の学際的橋渡しにも、いささかなりと貢献できれば」としています。つまりそれは、そのままに天理教学の課題になるということです。

深谷前所長は、おやさと研究所公開教学講座(2014年)における記念講演「天理教神学の輪郭と課題」の中で、「教義学は、啓

示と現代との時代的ギャップの橋渡しをして、啓示と現代科学、現代思想の成果との出会いの場を提供するものでもあります。それは、教祖ご在世当時の社会情勢や人々の様子を考察して、その時代・環境の中で啓示の意味を正しく理解することであり、また、一方では、学問の深化、科学の発展や社会情勢の変化に対応して、その時代の人々の言葉で教義を解説したり、啓示の新たな解釈の展開を試みたりする営み」であるとお話になりました。また「教義学は信仰の僕であり、教会・教団に仕えるもの」とも言われました。

「おふでさき」には、このよふのしんぢつねへのほりかたをしりたるものへさらないので(5号65)このねへをしんぢつほりた事ならばま事たのもしみちになるのに(5号66)ともありますが、私はこのおうたの意はここで先生が言われる教学に対する強い急ぎ込みであると受け止めています。それであればこそ、

しんぢつにこの元さいかしいかりとしりたるならばどこいいたとて(10号48)とあるように、どのような時代、どのような伝道の場面であっても教えを取り次ぐことが可能になるのです。

研究所では昨年度の公開教学講座で「天理教と現代社会の生死観」を取り上げました。生命の誕生から死に至るまでの私たちの人生の節目に焦点をあてながら、天理教の教えに基づく現代社会の生死観についての理解を深め、今ここに生きていることの意味を問いました。また特別講座「教学と現代」では「これからの社会と天理教—ポスト教祖百三十年祭を見据えて—」として「家族をめぐる諸問題」を取り上げています。今後も研究所は時代の抱える様々な困難、それに伴う世の中の閉塞感を受け止め、解決への道程を世に示す教学の充実に向けた活動に努めたいと思います。